

会水二

会報 1 1 2 号



令和 4 年 8 月

姫路南プロバスクラブ

姫路南プロバス 20 周年記念事業・実行委員会

5 月 25 日 13 : 00～14 : 20

出席者 中野会長、岡本、藤原、明石、前田、川本、濱口 7 名

姫路南プロバス 20 周年記念誌（案）

1. 巻頭言： 記念誌発行の目的 他 （会長挨拶）表紙・姫路城
2. 姫路南プロバス発足の経緯&10 年の歩み
10 周年記念誌で書かれているが、その要約版（記録として）
設立までの経緯、設立関係者名（発起人他）
3. 10 周年から 20 周年までの歩み 岡本委員長
 - ・活動記録：会誌「二水会」からの抜粋
 - ・会員名簿と入退出者名記録
 - ・現会員の写真撮影（11 月例会にて）藤原委員長
4. 寄稿文
 - ・外部祝辞案（姫路南ロータリークラブ会長、全日本プロバス協議会会長）
 - ・設立時の南ロータリークラブ会長又は社会奉仕委員長からの祝辞
（挨拶祝辞は 950 字以内、要写真）
 - ・現会員（全員）からの一言（800 字以内）
5. 姫路南プロバス会則の掲載（細則は含まず）
6. 編集後記（編集委員長）

スケジュール（11 月末に全原稿・資料を集める）

	R4.8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	R5.1 月	2 月	3 月
寄稿文・祝辞	○ 会員 依		○ 祝 辞 依	〆切○				
寄稿文編集								
写真撮影・編集				○				

資料準備・編集								
校正・製本								○

- ・各所への祝辞の依頼（10月始め依頼、締め切り11月末）
（ロータリークラブ、全日本プロバス協議会）
- ・全会員の一言（原稿用紙2枚程度）の依頼（休会員含む）
8月依頼、11月9日締め切り（手書きも11月9日例会）
休会員（伊藤、近藤）にも8月依頼（写真提供含む）
- ・全員の顔写真は11月例会で撮影（正装でお願いします）

準備委員会（大橋委員長）

- ・表紙：姫路城の写真（外部に配布したとき、姫路が明白）
- ・資料は全て濱口さんに集める（1名であること）
- ・印刷形式までの

以上



20周年記念事業実行委員会

姫路南プロバスクラブ 例会報告（6月）

〈役員会〉日時：令和4年6月8日(水) 午前11時00分～11時50分

〈例会〉日時：令和4年6月8日(水) 午前12時30分～14時40分

出席16名 欠席3名（藤原、近藤、伊藤）

◇委員会報告

※総務委員会

- ① 6 月 例 会 会員卓話 企画・坪田会員
- ② 6 月の誕生 長谷川会員 益田会員 市河会員 (誕生月で一言)
- ③ 7 月 例 会 7 月 1 3 日(水) 会員卓話 広報担当

なお、午前 1 1 時から役員会を行います。

- ④ 8 月 1 0 日、納涼例会 1 7 時 3 0 分から 1 階「セリーナ」の予定でしたが、
正午から 2 階「桃李」に変更。

- ⑤ 本日、南ロータリーから内藤さんと藤塚さんの新・旧社会奉仕委員長
さんが出席されています。また、梶原(カジハラ)一美さんが体験参加
されています。

梶原一美さんは大橋さんの紹介、大和工業専務、72 歳。

※ 研 修 親 睦 委 員 会

- ① 本日、秋の一日旅行の行く先等の概要説明があり、皆さんの多数決で
決めていただきたいと思います。

※ 坪田会員より行く先 3 案提示、概要説明があり、次の通り決定。

9 月 1 4 日(水) 大阪中之島美術館・岡本太郎展鑑賞

現在 1 4 名が参加予定。

- ② 5 月 1 6 日 第 4 4 回ゴルフコンペを旭国際にて開催、
また 7 月 2 5 日 赤穂・相生 P C の 3 クラブの合同ゴルフコンペを
姫路南担当で白鷺ゴルフクラブにて開催の予定。

※ 会 計

- ① 本日、前期会費を納入願います ② ニコニコ報告 中野会長（姫路南ロータリークラブ社会
奉仕委員長をお迎えして、コロナの規制緩和が進んでいますが従来からの対策を緩めること
なく実行致しましょう。）明石（皆様、本日は会費を有難うございました）大橋（藤塚委員
長殿お世話になりました。内藤新委員長殿よろしくお願い致します。梶原様・大歓迎！）川
本（コロナも下火になりました、プロバス
の会がづきますように）長谷川（いつまでも元気で行きましょう）前田（コロナ遠のき安心は
せずに皆んなで気をつけましょう）濱口（毎月の例会が楽しみ）

◇ 例会等出欠について

従来各委員長が事前に確認をしていましたが、今年度より例会ほかを
欠席される場合は、必ず事前に以下の担当者まで連絡をお願いします。

総務・岡本担当 企画・藤原担当

研修親睦・前田担当 広報・濱口担当

〈役員会〉 令和 4 年 6 月 8 日(水) 午前 11 時 00 分～11 時 50 分
出席者 中野、大橋、岡本、中塚、前田、明石、坪田、濱口 8 名
6 月例会について、坪田氏よりバスツアーについて説明

会員卓話 坪田一夫氏

1959 年、夢前町生まれ、姫路西高校、神戸商大卒、1982 年神姫バス入社
2010 年常務取締役就任、

ハッピーリタイアメントプラン 好きなことに時間

- ① 本 3000 冊（椎名誠 80、浅田次郎 60、藤沢脩平 51、ブライアン F 51、
その他 読書年間 100 冊、文庫本をバス・電車内
- ② 酒、居酒屋巡り、主水・谷かつ・ささま、出雲ほか
- ③ 自転車・ロードサイクル自宅に 5 台、日帰り 40 km 以内、1 泊 80 km
通勤にも使用、淡路島ロングライド、びわ湖一周、山なみ海道、
四国 88 か寺巡り、北海道、奥様と同行。



誕生月に一言

長谷川会員 家庭菜園で色々な野菜を栽培して、友人に分けています。

詩吟教室に毎週通って励んでいます。

益田会員 趣味で写真集を作成しています。腰を痛めていますが、毎週

公園で太極拳を指導しています。

市河会員 入会して 3 年になりますが例会出席とゴルフコンペには必ず

参加したいと思っています。

全日本プロバス協議会・第 10 回総会・八王子大会ご案内

「東京八王子 2022」実行委員長 一瀬 明

謹啓 陽春のみぎり、貴クラブにおかれましては益々ご繁栄の事とお慶び申し上げます。

本年 11 月 24 日（木）に全日本プロバス協議会第 10 回総会東京八王子大会（東京八王子 2022）を下記の通り開催を予定しております。昨年と一昨年と 2 年にわたり

コロナ過により大変残念なことでしたが、

五所川原での第9回総会・大会が順延の末、中止となりました。今回は4年ぶりの開催となります。皆さんと楽しく集い交流親睦を深め、さらに日本遺産に登録されました、八王子・高尾山を楽しめる計画もしております。紅葉に彩られる自然と文化を是非堪能して頂き八王子市たいと思います。

スローガン

「山と平野のふれあうまち東京八王子“交流・学びあい”のプロビアンに集い」

日時 2022年11月24日（木）13：00～19：30

場所 京王プラザホテル八王子 八王子駅徒歩3分

I 総会 II 交流会テーマ「我がプロバス活動」①東京八王子 PC ②PC 松任

③びわ湖大津 PC

III 歓迎イベント1部コンサート 男声合唱団シニアダンディーズ、ソプラノ、ソロ

IV 交流懇親会 1部懇親会 2部交流会職会

オプション 11月25日（金）エクスカーション（自由参加）

“高尾山の秋を楽しむ”「日本遺産」高尾山薬王院参詣と会食

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

なお、コロナの感染がまだ収まってはおりません。状況の推移を十分注視しながら適切な

対応をとってまいります。また今後の計画運営のために、皆様のクラブから参加される人数の凡その見通しをお知らせ下さい。

連絡先：東京八王子プロバスクラブ 〒192-0056 東京都八王子市追分 9-3

事務局 津田律三 TEL・FAX 042-635-1120 携帯 070-1000-8806

文化講演会 山陽特殊鋼文化振興財団

日時 5月25日（水）14：30～16：20

会場 アクリエひめじ中ホール

テーマ 一流スポーツ選手から学ぶ健康法

～健康づくりのための運動の大切さ～

講師 湯浅景元様 中京大学名誉教授

日本体育学会名誉会員

☆大橋副会長の勧めで濱口が参させて頂きました。



『4万 km を歩いた男、伊能忠敬の「人生二度有り」』（シリーズその15）

松下秀明記

ロシアのウクライナ侵攻を受けて、10月号の原稿と8月号の原稿を入れ替えます。話が前後するかもしれませんが、ご容赦願います。

ロシアがシベリアや東方に進出してきたのはなぜか

ロシア(当時はルーシ)は長い間「タタールの軛(くびき)」といって、13世紀ごろ、モンゴルの進出に脅かされ破壊されてきた。ウクライナ(キエフ)は最大の悲劇の場所であったという。それは2世紀半にも及んだ。ロシア人民の犠牲者数は甚大で、特にモンゴルは征服に抵抗する都市に対しては、全人口の抹殺をもって応じており、ロシアの都市も例外でなかったといわれている。モンゴル帝国が滅亡した後ロシアはどうしたのか。元IMF日本代表理事の小手川大助氏のブログによると、「**このようにロシアが現在のような世界一広大な領土を得るに至ったのは、①モンゴル帝国による征服で東方や東西交易に目が開かれたこと、②モンゴルの滅亡後東方に権力の真空地帯が出現したこと、そして③16世紀から18世紀にかけて極めて貴重な資源であった毛皮を求めてロシア人が東へ移動していったこと、が主要な原因だったのです**」と述べている。

ロシアが樺太から南下してきたのは、領土の拡大やスペインやポルトガルのような布教のためではなかった。北海道マガジン「カイ」のブログによると、「1728年、ユーラシア大陸と北米大陸の境界域を探検してベーリング海峡の存在を確かめたロシア海軍のヴィトウス・ベーリングは、1740年の2回目の探検でアリューシャン列島と北米大陸北西岸にまで到達した。しかし北洋の暴風に飲み込まれた77人のベーリング隊は、ベーリング隊長を含む31人が命を落とすという壮絶な痛みの果てに帰還する



。そして彼らが命からがら持ち帰ったラッコの毛皮が、宮廷や貴族たちの中で大評判となる」とあり、かつて難破したベーリング隊が漂着したコマンドル諸島でラッコを見つけた。たちまちそこを獲りつくすと、アリューシャン列島に進出。やがてそこもなくなると北米大陸西岸を南下したが、先住民やスペイン人に阻まれてしまった。

もう一つの理由は、食料である。シベリアやカムチャッカ、アラスカなどでは極端な食糧不足に悩まされた。西の本国からの応援は遠すぎたので、南下して日本に交易を迫ってきたのである。アメリカの開国要求も同じように捕鯨船の食料と水の補給であった。

犬飼哲夫氏の『北方動物誌』によると、「**ロシアはラッコの減少と食糧難でここを持っていることに価値を見出さなくなっていき、ついに1867年にはアリューシャンとアラスカをアメリカに、たった720万ドル(1km²あたり5ドルで現在の約120億円)で売ってしまった**」と解説している。なるほどロシアが新興国アメリカに広大なアラスカを気前よく安売りしてしまった大きな理由は、ラッコの獲りすぎにあったのだ。ところが1880年代の後半以降にアラスカで金鉱が相次いで発見されてゴールドラッシュがはじまり、1968年には油田が発見されている。ロシアは大きな失敗を犯したのだ。

次にロシアが目をつけたのが千島列島のラッコであった。千島のラッコはさらに上質

だったが、千島を南下しているうちにアイヌと遭遇し争いとなった。ロシアは圧倒的な武力でアイヌから搾取していた。それ以降、蝦夷地での幕府とロシアの戦いに繋がっていく。ロシアにとっては、ラッコを中心とする毛皮貿易は山丹交易で中国の清や西洋との取引で大きな利益を生み出した。ロシアはまさ

に毛皮大国で国力を回復していった。日本は毛皮として利用するより、大名への贈り物として重宝された。

北方領土は返還されるのか？ 日本でウクライナ問題は発生するのか？

少し余談になるが、最近のニュースにおける日本の行く末を考えてみたい。2022 年 2 月からロシアのウクライナ侵攻の問題で、毎日マスコミをにぎわしている。ウクライナの東部をロシア化し、クリミアまで陸路を続けようとしている。さらにモルドバにある非承認国家沿ドニエストル共和国まで延ばそうとしている。ロシアがウクライナに侵攻して 1 週間後、ベラルーシのルカシェンコ大統領はロシア侵攻の会議で、モルドバを映してしまうミスをした(池上彰のニュース解説)。そこには多くのロシア人がおり、ロシア軍 1500 人が警備に当たっている。今プーチンはそこまで陸路をロシア化しようとしている。

この次はどこが狙われるのか。私の予想では親ロシア派がいる独立国(右上図)。さらにかつてソ連連邦に属していた地域(右中図)だろう。

リトアニアの西、ポーランドに挟まれた土地はカリニングラード州と呼ばれロシアの飛び地がある。ソ連時代はソ連本土と地続きになっていた。5 月 5 日の時事通信社のニュースによると、「**ロシア軍は 5 月 4 日、バルト海沿岸の飛び地カリニングラード州で、核兵器を搭載可能な地上発射型ミサイルシステム「イスカンドル」の模擬発射を実施したと発表した。インタファクス通信が伝えた。短距離弾道ミサイルか巡航ミサイルかには触れていない。演習は「電子発射」と呼ばれるシミュレーションで、実弾は発射しない**」と報じている。カリニングラード州にはバルト艦隊の軍港があり、アメリカのバルト海への進出に警戒を強めている。ロシアからリトアニアへの情報工作(攻撃)も 2020 年は前年に比べ 1.5 倍に急増しているという。いよいよハイブリット戦争がロシアの周辺国に仕掛けられ始めている。

さらに、リトアニアは 6 月 18 日からモスクワとカリニングラードを経由する鉄道輸送の 50%を制限すると通達した。ロシアが鉄道を戦略的に確保するかもしれない。また新たな火種である。それによって、輸送はサンクトペテルブルクからになりバルト海を通るため、ロシアのバルト艦隊と NATO の艦隊が接



触する場面が増えることが考えられる。

北方領土はどうか。5月9日の戦勝記念日に択捉島では、ロシアの特殊部隊の軍事パレードが初めて開催された。さらに最新兵器を設置する計画があると報道されていた。同時にプーチン大統領が、北方4島を経済特区にすると宣言した。実効支配を確実にしようとしている。日本への警告と受け止められる。中国も南シナ海や太平洋の島々を手中に収めようとしており、アメリカを排除するため、ロシアと中国の共同領土戦略は着々と進んでいる。

2022年2月20日のフジテレビ系「日曜報道 THE PRIME」に小野寺五典元防衛相(自民党 安保調査会長)が出演し橋下徹氏らと討論をした。その中で小野寺氏はこう言った。**「ロシアはいま日本にも相当嫌がらせをしている。オホーツク海は深く、そこに原子力潜水艦を潜ませている。いざという時に攻撃することが最大の戦略だ。米国もそこを狙って突破してくる。実はいま千島列島付近も米国とロシアの主戦場になっている。北方領土問題は軍事的なことを考えてもたやすいことではない。話し合いは必要だが、話し合いで領土が帰ってくることはあまり大きな期待はせず、むしろ今回、ウクライナ問題で日本は強い姿勢に出る必要がある」と**。政府の高官はすでに日本へロシアの危機が迫っていることを危惧していた。

ただし、5月6日の日経新聞に、ロシアが経済的に弱体化すると日本にとって新たに危険度が増す可能性がある」と論評している。なぜならロシアと中国は結びつきが強くなっており、これがさらに減少すると完全に中国寄りとなり、より凶暴となって尖閣諸島や日本に迫ってくるというのである。

一方、産経新聞の総合情報誌「FACTA」2019年12月号の記事で、宮本雅史記者は「北海道が中国の32番目の省になる日」と警告した。それは**「1995年、中国の李鵬首相(当時)がオーストラリアのキーティング首相(当時)に「日本という国は40年後にはなくなってしまうかもわからぬ」と述べたとされる「李鵬発言」が日本の国会で報告されている。もし李鵬氏の洞察が正しければ、日本は2035年にはなくなることになる」というもの**。事実、日本に帰化した中国共産党の動向に詳しい中国ウォッチャーは、**「李首相が北海道に行ったということは、中国の北海道進出が本格的に動き出したことを示し、滞在中、各方面に今後の方針を指示したはずだ。日本政府が北海道訪問を歓迎したことで、道進出について日本政府のお墨付きを得たと受け止められても仕方がない。今のままで行くと日本は10年から15年後に侵食されてしまう恐れがある。カナダやオーストラリア、マレーシアは中国の戦略を分かっている。気づいていないのは日本だけ」と警告している**。2021年の調査で累計969ヘクタールもの日本の森林が中国や香港系の資本によって購入されていたことが明らかになった。北海道が最も多く、アイヌ民族を洗脳しているという学者もいる。しかも、貴重な水源や森林、自衛隊の基地の近くなど、国民のインフラ上、日本の安全上、大変重要な意味を持っている場所である。それが野放しにされているという。我々はもっと地政学的、歴史的に領土問題に関心を持たなければならないと思う。そこで役立つのは、先人たちが作った古地図や古記録、協定などの文献である。日本は韓国による竹島の実効支配すら手が出せない。ロシアや中国はそれ以上に戦略的で強引な国である。断固たる対応が必要だろう。

ロシアから日本を守った2人の偉人、大黒屋光太夫と高田屋嘉兵衛

一人目は大黒屋光太夫。宝暦元年(1751)生まれ、伊勢国(三重県)を故郷とする彼は海運業・廻船問屋の船長だった。光太夫一行の16名が運命の嵐に出くわしたのは、天明2年(1782年1月)。伊勢湾沖で暴風雨に遭遇し、アリューシャン列島・アムチカ島に流れ着いた。その原住民やロシア人は一行に優しくしてくれた。イルクーツクではスウェーデン人の著名な博物学者で、女帝エカチリーナ二世に認められ、帝国サンクトペテルブルグ科学アカデミー会員になったキリル・ラクスマンに助けられた。キリルは光太夫達を日本に帰そうとしたが上手くいかず、次男のアダム・ラクスマンが光太夫をエカチリーナ二世に謁見させた。光太夫の人格がそうさせたのだろう。これまで漂流民は日本語学校の先生となり日本に帰ることはなかった。しかしエカチリーナ二世は日本との交易を考え、光太夫達を交換

条件として日本へ帰すことにした。キリルはこの役目を次男のアダム・ラクスマンに託した。ちなみにエカテリーナ二世は、エルミタージュ美術館の建設や女性教育施設であるスモーリヌイ修道院の開設など西欧の最新の教育制度を導入したり、ボリショイ劇場やその下の学校であるボリショイアカデミーを創立したり、文化面でも大きな貢献をした。私もエルミタージュ美術館を訪れたとき、展示品の多さと壮大さに大きな感動を覚えた。しかし、展示品は世界中からの略奪品が多く含まれていた。一方で、ここに展示されているため、貴重な品々が分散したり紛失したりしなかったことも事実であろう。大英博物館やルーブル美術館を始め、世界の博物館、美術館は同じ役割と運命を持っているのだろう。



ついに寛政4年(1792)にラクスマン率いるロシアからの初公式使節団が根室に来航し、漂流者・大黒屋光太夫を送還するついでに幕府に通商を求めてきた。約10年ぶりの日本であった(右下順路図はブログ三道楽ノートより)。幕府は返答に困ったが、何とか長崎への許可証を出し、ラクスマンも役割を終えて帰国した。もし光太夫がイルクーツクでキリル・ラクスマンに出会っていなかったら、エカテリーナ二世に謁見できなかったら、リーダーが光太夫出なかったら、この歴史的な出来事は起きなかった。しかし、この偉業を幕府は活かすことが出来なかった。この事件が、後のレザノフ事件に繋がっていく。この過酷な事件を井上靖は歴史小説『おろしや国酔夢譚』(文芸春秋、1968)を発表し、映画化もされた。吉村昭の『大黒屋光太夫』(毎日新聞社、2003)は、さらに光太夫の心情に迫る内容となっている。

ラクスマンの寄港や松前藩の紛争などがきっかけとなり、幕府は寛政11年(1799)、200名近い幕府役人を調査のため蝦夷地に派遣した。この調査隊の先発隊長となったのが近藤重蔵である。当時重蔵は28歳。主要な配下として水戸藩士木村謙次(47歳)、間宮林蔵を引き上げた蝦夷地調査経験者村上島之丞(39歳)、それに蝦夷探検の第一人者として認められていた最上徳内(44歳)らがつき従った。翌年、林蔵が合流したことは前述した。

二人目は高田屋嘉兵衛である。樺太や蝦夷地の地図はなぜ必要だったのか。

先ほど述べたようにロシアの南下が一つの大きなきっかけであるが、それ以外にアイヌとの紛争、北海道の資源の確保、日本の国境の制定が理由である。前回、鎌倉時代ごろから松前藩が独占で蝦夷地を統治していたことを話したが、松前藩だけに任せておけないと幕府が動き出した。

明和6年(1769)1月1日(旧暦)、高田屋嘉兵衛は淡路島 都志本村(つしほんむら：現・洲本市五色町都志)に6人兄弟の長男として生まれた。寛政2年(1790)、兵庫にいる親類の船頭堺屋喜兵衛を頼って、下関まわりの船乗りになる。嘉兵衛は、船乗りから船頭へ、さらに北前船貿易の経営者へと上りつめていった。幕府は蝦夷地や択捉などへの探検や商売を考えていたが、国後と択捉の間は潮流が速く危険であった。幕府の依頼に誰も手を挙げなかった。そこで近藤は安全な航路の発見や海流の調査を嘉兵衛に託し、嘉兵衛はそれまでの経験で見事小さな船でも安全な航路を開拓した。後に出てくる工樂松右衛門が嘉兵衛を推薦したともいわれている。(つづく) (以上)

第2回 姫路南・相生・赤穂 PC 合同ゴルフコンペ

4月27日相生カントリークラブ

成績表

ランク	氏名	O	I	G	H	Net	
(優勝)	尾野凱生	41	51	92	20.4	71.6	
(2位)	松下秀明	40	45	85	13.2	71.8	※
3位	岸本 健	42	43	85	12.0	73.0	
4位	三浦憲之	49	46	95	21.6	73.4	
5位	板脇厚生	50	48	98	24.0	74.0	
6位	中野 剛	45	40	85	10.8	74.2	※
7位	大島靖彦	53	49	102	27.6	74.4	
8位	木元弘康	50	45	95	19.2	75.8	
9位	岡田ますみ	50	50	100	24.0	76.0	
10位	玉置栄一	57	48	105	28.8	76.2	
11位	香島英彦	50	45	95	18.0	77.0	
12位	岡田國秀	45	48	93	15.6	77.4	
13位	前田外美子	52	51	103	25.2	77.8	※
14位	藤岡弘司	57	51	108	30.0	78.0	
15位	萩原 忠	50	49	99	20.4	78.6	
16位	中嶋正義	50	53	103	24.0	79.0	
17位	長谷川正子	53	46	99	15.6	83.4	※
18位	市川 博	57	60	117	33.6	83.4	
(BB)	大川保美	55	59	114	27.6	86.4	
20位	大橋一喜	63	67	130	36.0	94.0	※

☆ ※印 姫路南 PC 会員



第44回親睦ゴルフコンペ

5月16日 旭国際姫路ゴルフクラブにおいて、

親睦ゴルフコンペを開催しました。

成 績	表	氏 名	O	I	G	HD	Net
ランク							
(優勝)		坪田一夫	49	42	91	18.0	73.0
(2位)		市河保俊	55	46	101	27.6	73.4
3位		中野 剛	48	44	92	16.8	75.2
4位		前田外美子	52	53	105	26.4	78.6
(BB)		長谷川正子	57	61	118	36.0	82.0
6位		濱口浩平	61	69	130	36.0	94.0



みんなが主役、

みんなが脇役

楽しくなければ

プロバスではない

川 柳

自粛やて どうせ

『さぎそう』 8月13日

“ しらさぎのよう、姫路・市花 ”



行くところない

「もう歳や」言うてた

頃は 若かった

濱口浩平 選

《 編 集 後 記 》

日の経つのは早いもので、お盆になりました。お互いに健康第一で
過ごしましょう。今後とも宜しくお願い申し上げます。

第 112 号 令和 4 年 8 月 10 日 姫路南プロバスクラブ（二水会）

姫路市南駅前町 100 ホテル日航姫路 601 号室

姫路南ロータリークラブ事務局内

電 話 079-224-8224（F A X 288-3941）

会報発行：総務委員会・広報担当・濱 口 浩 平